

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4(3)	地域密着型サービスを提供する施設の趣旨において運営推進会議が行われ、事業所からの報告・課題や入居者様の御家族等で出された意見等話し合い、会議メンバーより意見や要望を受け、サービスの向上に活かしていたが、さらに全職員間における会議の趣旨の把握と協議内容の周知が必要である。	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議を通じてホームで知りえた情報等(介護保険情報・感染症の事や家庭でできる予防法・リスクを通じて注意点や予防としてリハビリや体操)を家族や全職員間にて共有して一層地域での交流を図る。今まで行った人達の事例経過や各会議等で話し合った検討事項等その後の経過や現在取り組んでいる内容も報告し意見をもらう。	12ヶ月
2	33(12)	終末期におけるご家族とその関係者、かかりつけ医、施設での対応について、施設がどこまで関われるか職員の意識確認や協力体制作りの強化、職員一人ひとりが今の状態を把握でき、情報の提供が図れるようになる。	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	入所時より面会や施設の催し等を通じて、ご家族と重度化、終末期について支援のあり方をお話する。状態の変化時にご家族と話し合い、かかりつけ医・管理者・職員等と共に状況を把握して、連携を図り話し合い支援する。特にご家族の意向や気持ちの変化にはその都度確認を取りニーズに応じた協力体制をとれるように話し合う。また、より一層職員が重度化・看取りの状態の把握のため、研修に積極的に参加し、施設内では伝達研修やマニュアルの習得を行う。	12ヶ月
3	6(5)	「身体拘束を行わないケア」を職員全員が取り組み、施設しない事等実践している。庭に畑があり、前には田んぼがあり散歩や外出を支援して自由に外に行かれる等の配慮等行い外での雰囲気を楽しんで頂いている。ご家族の理解と職員の抑圧のない生活支援を充実する。	身体拘束をしないケアの実践	今までと同じように身体拘束を行わないケアを行っていき、リスク委員会や身体拘束・虐待防止の会議を継続して行い、やむをえず実施しなければならない状態の場合、極力改善できるように職員全員が努力を行い、対策への周知徹底を図る。その都度ご家族にも対応していく。また研修等の機会があれば参加を行なって行く。	12ヶ月
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目のNoを記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。